



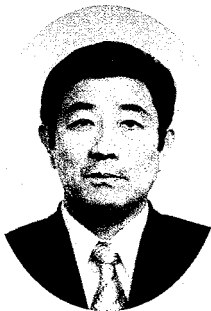
岐阜の博物館

編集兼発行
〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111

＝ 協会創立40周年 特集号 ＝

祝 辞

岐阜県知事 古田 肇



このたび岐阜県博物館協会が創立40周年を迎えられました。心よりお喜び申し上げます。振り返りますと、貴協会は昭和41年6月25日に設立され、以来一貫して「会員相互の連絡連携のもとに施設や

活動の拡充、発展をはかり、もって社会教育の健全育成に寄与すること」を目標として、堅実な組織作りと運営に努めてこられました。機関紙『岐阜の博物館』の発行や棚橋記念賞の創設は、その成果として各方面から高い評価が寄せられています。

しかし、なんといっても忘れてはならないのは、協会草創期における積極的な県立総合博物館建設陳情に関わる活動であり、それが岐阜県博物館の開設につながったことです。本日、協会の40周年記念式典が、開館30周年記念特別展が開催されている県博物館を会場に開催されることを思うと、深い感慨を禁じ得ません。

本県では、ふるさとに誇りと愛着を持つ子どもたちを育てるため、「ふるさと教育」として、幅広く郷土の豊かな文化、歴史、自然に触れ親しむ機会の充実や、これらの資源を生かした人づくりに取り組んでいます。その推進拠点や推進役となるのが、県博物館、県美術館などの県立博物館施設と博物館協会員である県内各地の博物館施設、そして個人会員の皆さまであります。

今後とも本県の進める文化振興にご理解とご支援を賜りますことをお願いするとともに、協会の益々の充実、発展を祈念申し上げます。

協会創立40周年を記念して

岐阜県博物館協会名誉会長
高山市長 土野 守



昭和41年6月25日に関係者30数名が参加して、初代会長に当時の岐阜市長、副会長に名和昆虫博物館長を迎え、官民が協力する形で本協会が発足してから、本年で40周年を迎える事ができました。

そして今日会員館129館園、個人会員16名にまで発展致しました。協会の資料からは当時世の中では「博物館行政の空白」、「県下文化財の流出」などの声が叫ばれ、そのような社会背景の中で本協会が創設されたことが解ります。また、その後の本協会による陳情活動などは県博物館(昭和51年)、県歴史資料館(昭和52年)、県美術館(昭和57年)、更にその後続く官民の博物館の設立へと繋がり、今日では本県が全国的にも質量ともに優れた博物館を有するに至りました。

更に学芸技術員認定講習を始めとする専門職員の養成事業である会員研修会、会員相互の連携を図る機関紙『岐阜の博物館』の継続的な発行、協会賞などの顕彰事業、更に東海地区の他県博物館協会との発展的な連携など、県内並びに県域を越えての博物館事業を推進する上で、本協会はこれまで誠に重要な役割を果たして参りました。

本年はその節目とも言える記念すべき年であり、改めてその初心に立ち返り、博物館活動の拡充発展、社会教育の健全な推進と文化の向上への寄与という本協会創設の目的、趣旨の意味をここに会員各位が再認識をして、本協会並びに本県の博物館事業が更なる発展へと邁進出来ますよう祈念申し上げます。

岐阜県博物館協会 創立40周年を迎え

岐阜県博物館協会会長
若宮修古館 若宮 多門



岐阜県博物館協会は、昭和41年6月、県内の私・公立の博物館、美術館、資料館等が相互に協力し交流しながら博物館の振興、社会教育の進展また文化の向上に寄与することを目的として設立されました。本年ここに無事、創立40周年を迎えられるのは、偏に設立準備に関わられた先輩会員の御苦勞、そして会員関係各位の絶大な御協力によるものと心より感謝いたします。

本県の今日の姿を見定めようとする時、私達が常に想起しなければならないのは、先人達により残されてきた尊い文化遺産や歴史、自然遺産等を大切に保存するとともに、将来の岐阜県を築くために有効に役立たせねばならないということです。

そのためには、県内の各館が相互に連帯と協調を計りながら各所に有する資料を調査・研究し、その成果を公開していくことであり、その根幹となることが本協会の最大の使命といえましょう。

現在、本協会は博物館及び類似施設館約130館を中心とし140余名の会員をもって活動しております。その事業内容においては殊に「会員研修」「機関紙」「公開講座」を3本柱とし、会員の資質の向上、広く県民への情報発信また地域の歴史、文化の保存、伝承の推進に努めてきました。

最後となりましたが、創立40年を節目とし更なる発展を目指し、新しい事業展開を提案させていただけることになりました。ここに、本協会の理念に御賛同いただき多大なる資金のご支援を賜りました、企業・団体を始め会員の方々に、心より御礼申し上げますとともに、今後益々岐阜県の文化の向上に寄与するため精進、努力することをお約束し、創立40周年の記念のあいさつとさせていただきます。

協会創立時を回顧して — 初代事務局長のころ —

岐阜県博物館協会顧問
日本甲冑研究所長、関ヶ原ウォーランド日本甲冑博物館長
文博・哲博・神博 吉田 幸平



昭和37年6月15日、岐阜市のユースホテルに集合をしてくれと、名和昆虫博物館長(第3代)から電話があり、参加したら、20名程がいた。名和館長は「岐阜県博物館協会を組織して、将来の博物館協会を作るため」という。集まった者の自己紹介があったが、教師として参加していたのは私一人であった。当時、博物館とはいかなるものなのかは、名和昆虫博物館や、岐阜城位の展示が代表であり、博物館学とか、展示学となると誰も未勉強の世界であり、未開拓の分野であったが、参加者は必要であると感じていた。勿論、学芸員という言葉も新しい時代であった。名和昆虫館長は「吉田君は教師で、時間的余裕があるから、事務局の雑役をやってくれないか」岐阜城館長の郷氏は「野戦帰りの君は、俺と同じ野戦で苦勞したのだから、たのむ」ということであった。「どうして私にそんなことをやらせるのですか」「君は甲冑について永年県下を調査し、その業績で、県の芸術文化顕彰を受賞しており、学芸員資格もっていて、個人的には君は先進者だ」という理由だということである。やれるだけやってみようということで、五里霧中に出発した。その後、県下の五名の学芸員を中心として、研究会を開き、また、毎月モンキーセンターでは、博物館セミナーを開いていたので、私は毎回参加した。そして、小野木氏の参加によって、岐博協機関紙として、全然予算のない中で、特有の孔版技術の8頁の機関紙を手刷りで作って配布した。これは、大きな組織への力となった。また、名和館長・郷館長とは、記憶では10回以上、名和宅で朝の雀の声を聞く徹夜会議を持ったことが思い出される。それは東海支部の当番県を如何にするかということであり、岐阜では無理で高山でお願いするというので、その責任ははたした。正直いって、予算なしの苦しい時代であった。役員会は、集まれば、喧嘩囂々で、凄惨な人間集団であった。

学芸技術員認定講習会 当時を振り返り

岐阜県博物館協会顧問・前副会長
内藤記念くすり博物館 青木 允夫



この講習会は昭和50年9月27と28日の両日、岐博協が会員館園職員の資質向上と発展を願って開催されました。

博物館学・博物館社会教育論・仏教美術概論・自然史教育論・民俗

学概論・考古学概論・美濃古窯論・甲冑展示論・博物館運営論・文化財保護法改正解説など、いずれも博物館関係の現役ベテランの講師によるものでした。

当初は数十名の参加を予想していましたが、会員館園勤務者はもとより教師、学生、文化財を持つ寺社関係者、各市町村教委の人々などの参加で総数350名となり、事務局ではその対応に忙殺されました。会場となった「くすり博物館」のホールは302席だったため、やむを得ず補助椅子に座っていただきました。講習は2日間のため、遠隔地の方には隣接するエーザイ(株)の研修寮が提供されて好評でした。

同じ講習会は昭和53年秋にも実施され107名が参加されました。

郷浩副会長、吉田幸平理事長らによって企画推進された講習会は県下の博物館界に大きな影響をもたらしました。講習終了者には認定書が交付されました。この受講者に対する今後のフォローについて議論しましたが、500名近い受講者の組織化は予算、事務能力から断念せざるを得ませんでした。しかし協会の事業、博物館学セミナーなどには参加自由とし、希望者には開催通知を発送することにしました。その後各大学に学芸員養成課程が増加したこともあり、協会主催の講習会は2回のみで終わりました。

一方、会員を対象とする博物館学セミナーは吉田幸平、宮崎惇、小野木三郎の皆さんが中心となって開催されてきました。昭和48年の開催記録を見ますと、岐阜、高山、郡上、岩村、西濃赤坂などで9回開催しています。

これらの詳細は「岐阜の博物館」37号(昭和51年)をご覧ください。

快適な地球で文化を楽しむ

岐阜県博物館協会顧問・前副会長
郡上八幡民芸美術館 松本 五三





ここ数十年で私達の生活は非常に便利になった。しかしそれと引き換えに、二酸化炭素排出量の増加による温暖化、水の汚染など、私達は自らが住む地球の自然破壊を行い、住みにくくして

いるかのようだ。だが、人間はそれらがどうしておきるのかという事も知っているのである。それならば人間の豊かな知恵と良識のある行動によって地球を快適な住み家としなくてはならないと思う。そしてその住みやすい環境の中で、自分達が生み出した文化を楽しむことが最高の幸せではないかと思う。

今年、わが八幡町では地域の文化を高める一環として郡上八幡ひな祭りが企画された。3月3日から4月3日まで各家庭にある雛人形を出し、町全体で、江戸、明治、大正、昭和、平成の手作りの雛人形を鑑賞しようというものだ。長い年月を経てきた人形にはそれなりの品格があり、またどの人形にも祝ったり祝われたりした家庭の思いがこもっており、見飽きることがなかった。この催しは住民はもとより、観光客の皆さんにも好評であった。この先4月15、16日には町内三つの神社が各々独自の大神楽(県無形文化財)を奉納しながら町内をまわり、同時に各町内手製の御神輿も練り歩く。町をあげてのお祭りである。そして7月には郡上踊りが始まる。大神楽も郡上踊りも江戸時代から(両者とも御鋤祭*から生まれたといわれている)、祈りや娯楽として、また使命感をもって町民が守ってきた。

衛星写真でみる地球はとても美しい。そしてその中で、美しい風景、美しいもの、美しい文化がひしめいている。そんなすばらしい地球-自然と文化が次の世代に順々に受け継がれていくことを念じている。

※五穀豊穡をもたらす御鋤神様を伊勢神宮から迎える神事で盛大な祭りを催した。郡上では江戸時代に7回巡回が記録されている。-歴史探訪・郡上八幡・郡上八幡教育委員会より

年月日	事項
昭和52年10月20,21日	日本博物館協会博物館職員研修会(会場:高山市)
昭和53年11月18,19日	第2回学術技術員講習会に107名参加(会場:内藤記念くすり博物館)
昭和54年11月12,13日	愛知・三重・岐阜3県博物館協会交流研究会(会場:内藤記念くすり博物館)
昭和55年5月	協会事務局、内藤記念くすり博物館から岐阜県博物館へ移転
10月	ポスター「博物館へどうぞ」三色刷発行
昭和56年6月25,26日	東海博物館連絡協議会(会場:瑞浪市化石博物館)
昭和57年10月4,5日	3県博物館交流研究会(会場:岐阜県博物館)
昭和60年6月29,30日	第1回岐阜県博物館協会会員研修会(会場:内藤記念くすり博物館)
	<p>100館を超える県内の博物館及びその類似施設等の職員や、個人会員等あらゆる関係者に開かれた個人的な研修の場とすることを確認し、名称を「岐阜県博物館協会会員研修会」とすることになりました。「もの」があることで共通する種々雑多・大小様々な会員各館園、その実務的な学芸活動上の諸問題について、実践を交流し、情報を分かちあい、仲間意識を高め親睦を深めることをめざしていきます。ひとりでも多くの方々の参加が望まれます。</p>  <p>(機関紙71号)</p>
9月30日	「岐阜県の博物館」発行
昭和63年5月10日	第36回公開講座(会場:高山市民文化会館)
	<p>博物館セミナーを公開講座と改める 岐博協が昭和55年5月に第1回のセミナーを開催し、その後着実に発展し、今年の1月で35回を数えました。その間、次第に会員のみならず一般の参加者も増えてきました。そこで、名称を「セミナー」から「公開講座」と変更し、公開講座委員会をさらに充実しました。公開講座委員を5地区から選任し、各地区の博物館活動の活性化を図りました。</p>  <p>(機関紙82号)</p>
10月18,19日	3県博物館交流研究会(会場:海津町文化センター)
平成元年3月31日	ガイドマップ「岐阜県の博物館」発行
平成2年1月8日	機関紙「岐阜の博物館」創刊20周年
平成3年6月13,14日	東海博物館連絡協議会(会場:岐山会館)
6月25日	岐阜県博物館協会設立25周年
10月17,18日	3県博物館交流研究会(会場:グリンピア恵那)

文化講演会「ポンペイの輝きと ソンマ・ヴェスヴィアーナの発掘」の講演要旨

講 師：独立行政法人 国立西洋美術館 館長 青柳 正規
日 時：平成18年5月26日 午後2:00～3:30
会 場：関市小屋名 岐阜県博物館ハイビジョンホール



イタリアのナポリ湾に近いポンペイは、紀元79年8月24日のヴェスヴィオ山噴火によって埋没した。1万2千人ほどの住民がいたポンペイは、ローマ帝国では決して大きな都市では

なかった。しかし、ローマ帝国全体の人口が5千万ほどであったことを考えるなら、現在の1万程度の都市よりもはるかに大きな存在であったことは確かである。

噴火によって住民の9割近くは逃げおおせたと推定されるが、千人以上が犠牲になったことも確かである。これらの犠牲者の中には頑強な構造の自宅にいた方が安全と考えた裕福な市民がかなり含まれていた。皮肉な結果といえるが、そのことはポンペイの自然条件に関しても同じことがいえる。ポンペイ周辺は






火山性台地で、ブドウ、野菜、小麦、様々な果物などが収穫できたばかりか、イノシシ、シカ、野ウサギ、野鳥などがヴェスヴィオ山麓に数多くいた。しかもサルノ川によって内陸部と結ばれていたため、物資の集積地として商業も栄えていたのである。その一方でヴェスヴィオ山といういつ噴火するかわからない火山と抱き合わせでもあった。自然の恵みをもたらしてくれる火山は、噴火という災害をもたらす山でもあったのである。そのことを考えると同時に、東京大学が2001年より取り組んでいるソンマ・ヴェスヴィアーナでの発掘を紹介しながら、ヴェスヴィオ山の北山麓の自然と文化を考えることにしよう。



ポンペイ


永年にわたり岐阜県博物館協会の活動に貢献された次の皆様が表彰されました。

■ 特別功労者

表彰者名	功績・略歴等
 吉田 幸平	岐阜県博物館協会の設立に多大な尽力をされ、また、初代事務局長を務められるなど、協会創立当時から今日まで、幅広い学識経験・行動力で協会の発展のために多大な貢献をされている。
 青木 允夫	岐阜県博物館協会草創期から今日まで協会理事、理事兼事務局長、理事長、副会長の要職を歴任され、博物館界の発展のために多大な貢献をされている。
 松本 五三	岐阜県博物館協会の理事長、副会長などの役員を歴任し、協会の発展に尽くすとともに、公開講座委員として会員の交流と博物館協会事業の普及に多大な貢献をされている。

(順不同、敬称略)

■ 棚橋記念賞

表彰者名	功績・略歴等
 宮崎 惇	昭和41年6月25日岐阜県博物館協会設立当初より、県内博物館の指導者のひとりとして活躍される。 「岐阜の博物館」の編集委員を務めるとともに、「棚橋源太郎－博物館にかけた生涯－」を著作・発刊されるなど、40年の永きにわたり学術研究に努められ、協会並びに県内博物館の発展のために多大な貢献をされた。

(敬称略)

岐阜県博物館協会の創立40周年記念 事業にご支援いただいた企業・団体

- (財) 田口福寿会
- (株) 十六銀行
- (株) 大垣共立銀行
- 岐阜信用金庫
- 東濃信用金庫
- 高山信用金庫

(順不同)

◇ お知らせ

平成18年度一般会費について、次のとおり納入をお願いします。

○会費	国・県立館園	10,000円
	市町村立館園	5,000円
	私立館園	3,000円
	個人会員	2,000円

○納入期限 平成18年6月30日(金)

○振込 岐阜県博物館協会

銀行振込 十六銀行関支店(普)445729

郵便振込 00860-2-37909